

第 66 回日本生殖医学会学術講演会

0-002

鳥取, 米子コンベンションセンター, 2021. 11. 11-12

チョコレート嚢胞合併不妊患者に対する嚢胞反復穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法の有効性

○重田 護^{1,2)}, 樽井千香子¹⁾, 井谷 裕紀¹⁾, 岸田 賢治¹⁾, 高矢 千夏¹⁾, 江原 千晶¹⁾, 河邊 麗美¹⁾, 菊川 忠之¹⁾, 藤岡 聡子¹⁾, 辻 勲¹⁾, 橋本周²⁾, 福田 愛作¹⁾, 森本 義晴³⁾

¹⁾IVF 大阪クリニック, ²⁾大阪市立大学医学研究科リプロダクティブサイエンス研究所, ³⁾HORAC グランフロント大阪クリニック

〔背景・目的〕チョコレート嚢胞合併不妊症では ART 前の手術療法が不妊治療の成績を改善せず、逆に卵巣予備能低下を来すため、小さなチョコレート嚢胞は手術をせず ART を実施することが推奨されている。しかし、手術なしでは、チョコレート嚢胞の卵子への影響、採卵時の感染、妊娠中の破裂、癌化のリスク等の問題があり、ART 前のチョコレート嚢胞の取り扱いに関する統一見解はない。いかにして卵巣予備能の低下を回避し、妊娠率向上および妊娠予後を改善させるかが、生殖医療におけるチョコレート嚢胞取り扱いの重要課題である。この課題に対して当クリニックではチョコレート嚢胞反復穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法を試みているので、その有効性について報告する。

〔方法〕チョコレート嚢胞合併不妊患者 12 名（平均年齢 36.1 歳）に対して、2019 年 12 月から 90 日間のジェノゲスト投与と並行して、その間に最大 3 回の経膈超音波ガイド下嚢胞穿刺吸引術を施行した。投薬終了後、調節卵巣刺激にて ART を実施した。〔結果〕12 名中、5 名が 1 回目の胚移植で妊娠、4 回目までの胚移植で 9 名に妊娠が成立し、8 例が現在妊娠継続中である。処置後 12 カ月間での累積妊娠率は 75.0%であった。処置前の嚢胞サイズが 30mm 以上の症例は 8 名（平均年齢 37.0 歳）であり、8 名中 5 名に妊娠が成立し継続中である。この 8 名中 2 名ではチョコレート嚢胞のサイズは 60mm 以上であったが、処置後フォロー期間中の嚢胞サイズは 30mm 以下に縮小していた。本処置による、出血、感染などの合併症は認めなかった。

〔結論〕ART 前のチョコレート反復嚢胞穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法は、嚢胞サイズの制御ならびに ART 成績の改善をもたらし、チョコレート嚢胞手術なしでの ART の有用な選択肢となると考えられる。今後、症例を集積し、本治療法の効果を検証して行く。